災害支援ナース活動報告書

報 告 者　：櫻井　久美子
所属施設　：新潟臨港病院
報告月日　：令和　6年　2月　10日

活 動 日	2月 5 日（月） ～ 2月 8 日（木）
活動場所	施設名　いしかわ総合スポーツセンター

活動内容

2/5　メンバー集合　自己紹介　統括リーダー決め（立候補ですぐに決まる）、全体オリエンテーション
　　シフト発表　→　当日夜勤となる為昼食後仮眠に入る。

2／5～2／6　メインアリーナ夜勤
　メインアリーナを4つのチームに分けて2名で担当（チームリーダーとなる）
　・内服確認　4名、体調確認（血圧2名、COVID19陽性者2名）
　・認知症の徘徊する方の対応
○20時、23時、2時、5時巡回
　不在の方も多くタイミングを見ながら声を掛ける
○現象を確認しながらワークシートやカルテより情報収集、またワークシートの確認と整理
○カウンターに直接訪ねてくる方の対応（担当関係なく対応、話を聴く）
○7時血圧の高い方、頭痛を訴える方の血圧測定。また介護チームからの入浴予定者のリストに沿って
　血圧測定しリストに記録
○カルテ、ワークシートに記録
＊リーダーと情報共有を行いながら活動

2／7　メインアリーナで日勤　4つに分けた1つを2名で担当）
○8時30分　夜勤者より引継ぎ（ワークシートの確認）
○9時　褥瘡のある方のシャワー浴の立ち合い（介護チームが実施）、観察と創部の洗浄
　家族に皮膚科受診の際に伝えて頂きたい事を依頼（メモを作成し、渡す）
○COVID19陽性者　同一テント内の家族2名の体調確認（体温、SPO2測定）
○感染性廃棄物ボックスが一杯のボックスの交換と運搬、物品の整理
○血糖降下剤を中断している方の情報の整理（中断の経緯など）　→　血糖上昇の症状の確認
○他エリアの認知症の徘徊する方の対応
○エリア内巡回　（11時、14時　皆さんと一緒のラジオ体操）
○保健師チームと連携し、受診や処方の依頼

2／8　7日と同様のエリアを担当　メンバー6名で担当　チームリーダーとなる
○褥瘡ケアの方法、物品の確保と準備、介護チームにシャワー浴の回数を増やせるよう情報共有
○介護チーム、DPAT、保健師など他のチームとの情報共有や連携が必要な方をリーダーに報告、共有
○感染性廃棄物の管理が煩雑な為、リーダーと共有BOXの「8割廃棄」「フタからはみ出さずにフタをする」
　など感染予防の基本的なルールを徹底してもらう

所感

・対象に配慮した支援。療養の場では無く生活の場である。この事をいつも考えて活動を行った。
　支援チーム同士、他職種やチームをリスペクトして良好なコミュニケーションを心掛けた。
　他チーム、行政など様々な組織が関わっている為、医療や生活の調整が予想以上に困難であった。
　だからこそ、リーダーを中心とした支援ナース同士、他チームとのコミュニケーションが重要である。
・タイムマネージメントこれがあってこその継続支援であると感じた。時間のけじめがあるからこそ
　情報の共有がしっかりとできた
・どんな状況であっても「住み慣れたところに戻りたい」と皆さんが話してくれた。
　支援活動を通して「望む生活ができる様生活を整える」事は看護師の役割である。という事を
　改めて教えて頂いた。